



横浜市立一本松小学校

6月号

学校だより

令和元年5月31日

横浜市立一本松小学校

校長 小原 健人

地域の人とともに

副校長 高木 圭子

5月中旬より気温がぐっと上がり、例年にない夏日が続きました。木々の色も新緑の柔らかな色から、濃い緑に代わり夏が近づいていることを感じます。校庭に目を向けると、種から小さな芽が出たことを喜ぶ微笑ましい姿が見られました。大雨の日には昇降口に野菜の苗を非難させる優しい姿も見られました。教室で飼い始めた蚕の卵が孵化し、数mmの幼虫からたくさんの発見をする姿もありました。田植えを行う学年もあります。秋の収穫まで、自然、季節の変化に応じて知恵を絞っていくことでしょうか。植物や生き物を育て、観察する中で、子どもたちは大人では気付かないような小さな変化に気付き、喜んだり、困ったりします。困ったときは調べたり、相談したりしながら解決し、成長、収穫の喜びを味わってほしいと思います。自然の豊かさや厳しさを感じ、植物や生き物を大切にしようとする気持ちが育ってくれることと期待しています。

さて先日、一本まつりに向けた「大人実行委員会」が開かれました。地域、保護者の方々と前向きな話し合いがされ、いよいよ今年の本まつりがスタートしたことを感じました。

一本まつりに向けた取組は、子どもたちの方もスタートしています。今年の本まつりのスローガンは、次のように決まりました。

令和元年 記念に残る一本まつりにしよう

- | | |
|------|--|
| 1・2年 | ちいきのひとと なかよくなり めいっぱい 一本まつりを たのしもう |
| 3～6年 | 自分の仕事にせきにんをもち、友達と認め合いながら 協力し
最高の一本まつりにしよう |

このスローガンは、実行委員会の子どもたちが一本まつりに向けた思いをキーワードで出し合い、その思いをまとめたものです。「令和元年のスタートにふさわしいまつりにしたい」「地域を愛する気持ち」「地域の人とともに」「地域の方に感謝の気持ちを伝えたい」という言葉が出されたそうです。「地域への感謝の気持ち」は毎年子どもたちから出てくる言葉で、思いが受け継がれていることが分かります。子どもたちが地域を身近に感じ、感謝の気持ちをもち、それがスローガンの中に込められている一本まつり。子どもたちの中に、地域、保護者の方への感謝の思いが根付いていることが素晴らしいことだと思います。一本まつりの意味を理解し、それに向かって頑張っている姿を見ると、学校・保護者・地域が連携して子どもたちの教育を担っていく重要性を改めて認識しました。

今月もご支援ご協力のほど、よろしく願いいたします。